

2. 伊予市

伊予市の海岸延長は長く、北西方向に開けている。冬は季節風の影響を受けて、ごみが漂着しやすい地形である。

本調査の対象地点は、船でしか上陸できない立入困難地域であり、伊予市の海岸を船上から目視で確認したところ、全地域が陸からアクセス可能な海岸であった。そのため、伊予市の立入困難海岸での漂着ごみ堆積地点は0であった。

しかし、これはあくまで立入困難海岸についてであり、陸からアクセスできる海岸や、船からもアクセス出来ない消波ブロックが整備された護岸に漂着ごみの堆積が確認できた。その一例として、図2の3カ所の状況を紹介する。

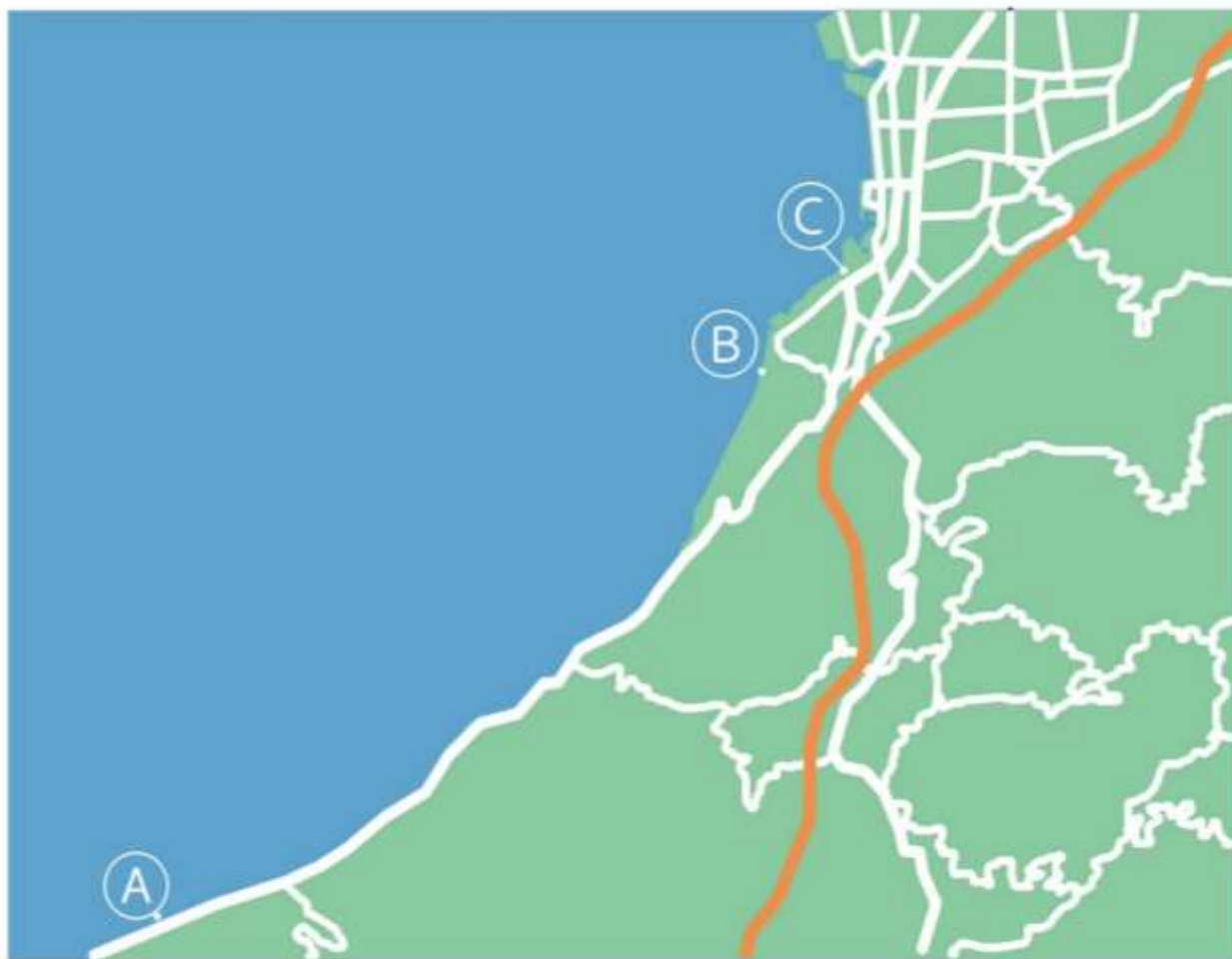


図2 陸からの調査地点

① 地点

伊予市西側の海岸は、大部分に消波ブロックが設置されており、自然海岸は少ない。道路側から消波ブロックを覗いてみると、隙間には大量のごみが堆積していた。高低差があり、ボランティア等による回収は危険で作業困難な場所である。



② 地点

伊予市の自然護岸の海岸「森の海岸」。

海岸には陸からアクセスできるが、入り口が限られており、海岸全体の清掃をするためには、数kmある砂・砂利浜を歩くしかない。

海岸には漂着ごみが散乱しており、定期的なごみ拾いが実施されている様子は無かった。



㉔地点

五色浜西側の海岸は、自然の砂浜海岸になっている。砂浜全体や道路沿いにはごみが散乱しており、定期的なごみ拾いが実施されている様子は無かった。

下側の写真はコンクリート護岸の工事現場である。護岸の高さが高く、ごみ拾いには入れない様子だった。

